

第6学年 体育科学習指導案

指導者 学級担任 佐藤 福起

- 1 日 時 令和6年6月14日(金) 5校時(13:50~14:35)
- 2 場 所 体育館
- 3 単 元 名 マット運動(器械運動)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新体カテストや水泳等の様子や結果から、運動能力において大きな差が見られる。運動が苦手な子どもの中には、自身の課題を客観的に理解できず、挑戦する前にあきらめてしまう傾向の子どももいたが、仲間と教え合うことで前向きになってきた。 (知識及び技能)</li> <li>○ 互いに協力し合う雰囲気はあるが、どこに課題があるのかを見出したり、課題を解決するために、どのような方法やアイデアがあるのかを相談したり、話し合ったりする力は不十分である。 (思考力、判断力、表現力等)</li> <li>○ どの活動においても、ほとんどの子どもが意欲的に運動しようとしている。班やチームで助け合う中で、リーダーシップを発揮したり、協力し合ったりするような姿が見られるようになってきた。 (学びに向かう力、人間性等)</li> </ul>	教材の特性	<p>マット運動は、「できる」「できない」がはっきりした運動である。そのため、子どもが「分かる」「できる」楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己やグループの課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることが大切である。</p> <p>その中でも、集団マット運動のよさとして、すでにできるようになった技においても、集団で演技することにより、新たな挑戦課題が生まれる。また、何度も集団で練習する中で、運動のリズムや美しさを習得することができる。そして、集団が一つの共通した課題に向かって協力的に練習し、達成することで、一人ではできない集団達成の喜びを味わったり、明るい雰囲気を創り出したりすることができる。</p>
--------	--	-------	---

(2) 単元構想

ア 単元目標

- マット運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した技や動きを安定的に行ったり組み合わせたりすることができるようにする。  
(知識及び技能)
- 自己の能力に適した課題を見付けて練習し、課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 安全に気を付け、仲間と協力して互いの考えや取組を認め合いながら、積極的にマット運動に取り組むことができるようにする。  
(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年	低学年	中学年	高学年
観点	〈マットを使った運動遊び〉	〈マット運動〉	〈マット運動〉
知識及び技能	○ マットを使った運動遊びの行い方を知り、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。	○ マット運動の行い方を知り、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技をすることができる。また、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	○ マット運動の行い方を理解し、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	○ 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んだり、動物に変身して腕で支えながら移動したり逆さまになったりする運動遊びの中から、動物の動きを選んだりすることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見付けて解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすることができる。 ○ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 運動遊びに進んで取り組み、マットが安全に置かれているかなど、場の安全に気を付けることができる。	○ 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。	○ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像(ゴールイメージ)及び教師の願い

仲間との関わりを大切にしながら、一人一人が自己の能力に応じた課題をもち、「分かる」「できる」楽しさや喜びを感じ、進んで器械運動に取り組む愛顔あふれる子ども  
 マット運動は、「できる」「できない」がはっきりしているため、「教材」「仲間」「自分」とつながる学びを通して、みんなが「分かる」「できる」楽しさや喜びを感じる単元にしたい。

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て				イ 評価規準				
「教材とつながる」		「仲間とつながる」		「自分とつながる」		主体的に学習に取り組む態度		
① 自分の能力や課題を把握するために、一通りの技を体験する。そして、設定した課題解決のために、模範動画を活用する。単元を通して、マット運動の楽しさを味わえるようにするために、「する・みる・支える・知る」場面を設定する。		② 自他の技能の向上につながる対話ができるようにするために、児童が相互評価するためのルーブリックを設定する。また、できる技を組み合わせて、音楽に合わせて集団演技を創作する。		③ 学習課題と本時のベスト動画と振り返りが一体となった学習カードを活用し、学びの成果を実感するとともに、新たな目標を立て、次の学びにつなげていく。		ア 運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ウ 場や器械・器具の安全に気を配っている。		
ア マット運動の安全な行い方を理解している。 イ 自己の能力に適した基本的な技を安定して行うことができる。 ウ 選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。		ア 自己の能力に適した課題を見付け、課題の解決の仕方を考えたり工夫したりしている。 イ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことや気付きを共有している。		ア 運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ウ 場や器械・器具の安全に気を配っている。		ア 運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ウ 場や器械・器具の安全に気を配っている。		
ウ 単元における指導と評価の計画								
時	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8
学習の流れ	自分ができる技を知ろう。 ○ マット運動での技の種類を確認し、自分の力を試す。そして、自分の課題を設定する。	できる技を増やしたり高めたりしよう。 ○ 自分の課題に応じた練習をする。 ○ 基本的な技をペアでシンクロしながら練習する。 ○ 学習を振り返る。		グループの演技をよりよくしよう。 ○ 演技構成カードを作成する。 ○ 基本的な技をグループでシンクロしながら練習する。 ○ ルーブリックを活用してグループの課題に応じた練習をする。 ○ 学習を振り返る。			発表会をしよう。 ○ 活動してきたことを生かして、発表会をする。	
	知 ア(様態、タブレットPC)		イ(様態、タブレットPC)	イ・ウ(様態、タブレットPC)				イ(様態、タブレットPC)
主な評価	思		ア(様態、タブレットPC)	イ(様態、タブレットPC)		ア・イ(様態、タブレットPC)	ア・イ(様態、タブレットPC)	
	態	ウ(様態)	ア(様態、タブレットPC)			ア・イ(様態、タブレットPC)		イ(様態、タブレットPC)

5 本時の指導（6／8）

(1) 目標

- 音楽と技の組み合わせ方を考えたり話し合ったりしながら練習に取り組むことができる。  
(思考・判断・表現)

(2) 準備物

- 教師 マット、タブレットPC、音楽
- 子ども タブレットPC

(3) 展開

学習活動	○ 教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準（方法）【観点】
1 準備運動をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">力いっぱい動けるように、体をほぐそう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもの動きが次第にスムーズにできるようになってきたな。</li> <li>・音楽との組み合わせが楽しみだな。</li> </ul> </div>	<input type="checkbox"/> 主運動につながる準備運動を丁寧に行うことで、安全に学習することができるようにする。 <input type="checkbox"/> 体をほぐすことができるように、易しい運動をする。
<b>グループの演技をより良くしよう</b>		
2 グループでシンクロしながら技の練習をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">技の練習をしよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいぶ、動きが合ってきたな。</li> <li>・もう少し、回転する速さを意識しよう。</li> </ul> </div>	<input type="checkbox"/> 本時のめあてを明確にして学習を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> グループの仲間や教師が動きの提案をする。その際、できる技が少ない児童や苦手意識が強い子どもが十分に参加できるようにアドバイスをする。 <input type="checkbox"/> ルーブリックを活用して子ども同士の話合いが活発になるようにする。 <input type="checkbox"/> 前時の振り返りをする中で、本時のグループの課題を意識できるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 運動を主体的に楽しむことができるように、「する・みる・支える」場面を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 自己やグループの能力に適した課題を見付け、課題の解決の仕方を考えたり仲間と共有したりしている。(様態・タブレットPC) <b>【思考・判断・表現】</b> <input type="checkbox"/> 本時の動画を見て振り返る時間を取り、良かった点や改善点を話し合う時間を設けることで自他を認め、次の活動へ意欲をつなげる。 <input type="checkbox"/> 学びの成果を実感できるようにするために、仲間同士で賞賛し合うような振り返りの時間を設定する。
3 グループの設定に応じた練習をする。 ・演技（する） ・応援（みる） ・補助等（支える）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">技の組合せを考えながらグループの課題に応じた練習をしよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の動画はどうだったかな。</li> <li>・マットの置き方はどうしようか。</li> <li>・このタイミングで前転をしたらどうかな。</li> <li>・タイミングの取り方を工夫しよう。</li> <li>・演技していない人の動きはどうしようか。</li> <li>・安全にも気を配る必要があるよ。</li> </ul> </div>	
4 整理運動をする。		
5 活動を振り返る。 (グループ→全体)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">今日の活動を振り返ろう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、音楽に少し合わせられるようになったな。</li> <li>・〇〇さんの動きが良くなっていたよ。</li> <li>・次回は、〇〇を工夫してみよう。</li> <li>・最後の技を変えてみたいな。</li> <li>・発表会に向けて、クオリティを高めたいね。</li> </ul> </div>	

(4) 本時の研究の視点

- マット運動の特性を生かした指導方法を工夫し、運動を主体的に楽しむ場面を設定することで、子どもたちがマット運動に前向きに取り組むことができているか。  
**【教材とつながる】**
- グループでの創作活動や思考ツールを用いた話し合い活動を取り入れ、仲間との関わりを充実させることで、自他の能力を把握し、一緒に学び合おうとする姿勢が育ったか。  
**【仲間とつながる】**
- タブレットPCを効果的に活用し、練習前後の自己の動きを比較したり、振り返り活動を工夫したりすれば、自己の成長を実感し、意欲的にマット運動に取り組むことができているか。  
**【自分とつながる】**

(5) ワークシート

※別紙（ロイロノート） ルーブリック 演技構成カード